

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	リハビリテーション
学籍番号	15S3023	院生氏名	小暮 英輔
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	周術期消化器がん患者の倦怠感の変化と運動機能、不安・うつの関連性について		
審査結果 (枠で囲む)	合格		
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 論文について：</p> <p>総合病院の消化器外科の手術症例を対象として、周術期におけるがん患者の倦怠感の変化と等尺性膝伸展筋力、6 分間歩行距離などの運動機能、不安・うつの関連性について調べたものである。時期として、手術前、手術後、退院後で測定し、時期ごとに倦怠感の消長とほかの評価結果との相関をみている。</p> <p>対象の選択基準は FIM が満点で、一回のみの手術、自宅退院が出来た症例 (N=46) とし、放射線や化学療法を受けた例、運動・認知・精神状態に問題のある例、術後合併症で複数回手術となった例などは除外した。</p> <p>その結果、Cancer Fatigue Scale による倦怠感評価は、周術期に関わる時間経過を追うごとに減弱した。すべての時期で倦怠感評価は、不安・うつとは有意の正の相関を持ち、手術前と退院後では、等尺性膝伸展筋力、6 分間歩行距離と有意の負の相関を持っていた。したがって、周術期消化器がん患者は手術前、手術後、退院後のすべての時期で、倦怠感とうつ・不安が関連し、さらに手術前と退院後では歩行能力や膝伸展力が倦怠感に関連している可能性が示されたので、こうした運動指導が倦怠感の改善につながる可能性を示唆したものと考えられた。</p> <p>身体・精神状態に特に問題の無い消化器外科がん手術例の患者群を抽出して、倦怠感の変化を診たもので、患者マネジメントの上で意義ある研究と評価できる。</p> <p>副論文については、審査開始時に、刊行すみの論文 1 編を確認した。また本論文の主な内容は日本リハ医学会誌に掲載済み (54 (7) : 536-545) であった。</p> <p>2. 審査会は第 1 回を 12 月 5 日 (火) に開催したが、症例の選択基準・除外基準の明確化、使用した倦怠感の指標尺度、不安・うつの指標尺度の信頼性・妥当性などの追加記載、データ収集時期の図示化など、いくつか問題点があったために、論文の修正を求めた。2 週後の 12 月 22 日に再提出された論文で、各指摘事項に関して適切に追加修正されたことを確認した。</p> <p>3. 論文の口頭発表において明瞭な発表を行い、審査での試問においては方法論上での疑問点、結果の解釈の妥当性などについての質問に的確に答え、指摘された部分については真摯に対応した。</p> <p>4. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士 (保健医療学) の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	主 査	赤居 正美	
	副 査	草野 修輔	
	副 査	糸井 裕子	